

平成 20 年度理研 BRC リソース検討委員会の評価と助言・提言について  
実験動物検討委員会

1. 過去 3 年間 (2006-2008 年度) の実績 (整備事業、開発事業、国際交流、広報、人材育成等) について
  - 評価
    - **期待以上の実績を挙げている。**
  - 特記及び留意事項
    - 特になし。
  - 助言・提言
    - 理研 BRC ブランドの更なる充実が大切と思われる。
    - 事業の継続性が重要であり、その確保のために BRC 利用状況及びマウスを利用した発表論文等の具体的な成果示す必要がある。
    - 単純な数値目標からの脱却が近い将来、大きな課題となると思われる。
    - 米国 Jackson 研究所を越えるためには、何が今後重要になるか検討しておく必要がある。
    - 人材養成には時間がかかるので、その手当を常に考えていただきたい。
    - 「担い手」の将来を考えておく必要がある。また、技術者のモチベーション維持の考え方も示していただきたい。
    - バイオリソース事業に「国際競争に勝ち抜き」というような言葉はそぐわないのではないかと。研究と区別した表現にしておいた方が良いと思われる
  
2. 過去 3 年間 (2005-2007 年度) の指摘事項への対応について
  - 評価
    - **真摯に対応し、事業をさらに発展させた。**
  - 特記及び留意事項
    - 特になし。
  - 助言・提言
    - 野生由来の近交系に対する取り扱い及び収集する基準を明確にすること。
    - 米国 Jackson 研究所との違いを明確にすることが必要。
    - マウス系統の品質管理について、Japan Mouse Clinic との関係並びに Japan Mouse Clinic の活用計画を具体的に説明することが望まれる。
    - 第一期 NBRP のサブ機関からの寄託については、継続してフォローアップすることが望まれる。
    - 標準系統について、凍結保存成績を HP に公開して、理研 BRC の技術レベルを示しておくことも重要と思われる。
    - 連携研究グループとの関連性を明確にする必要がある。
  
3. 今後 2-3 年の間に喫緊に整備すべきリソースについて
  - 助言・提言
    - オルガネラを可視化するマウス系統の収集。
    - 各種のダブル Tg マウスなどの複合モデルの収集。

- 汎用性の高いモデルマウスの開発。
- 「NOD/SCID+KO-genes(new)」が重要であり、期待されるものとなる。
- 遺伝子レベルのヒト化マウス(単なるトランスジェニックではなくマウス遺伝子をヒト遺伝子で置換したマウス)。
- Cre-driver マウスを発現情報と共に収集・整備することを促進すべきである。但し、Cre-driver マウスの解析は大変であることを認識して行うべき。
- 研究コミュニティからの要望をすぐに上げるシステムの構築が必要ではないか。
- 公募課題選定については、脳、癌、免疫等のように開発テーマを特化してはどうか。

#### 4. その他

##### ● 助言・提言

- BRC は安定した継続性が最も重要であり、そのための努力を行っていただきたい。
- BRC 内だけでは解決できない問題ではあるが、安定した事業運営のためには人材の継続的な確保が重要である。人件費枠の確保を何とか目指していただきたい。
- 今後、量から質への転換が必要となる。量的から質的変換の具体例を挙げていただきたい。また、ユーザーを加えた質の内容の検討システムを考えていただきたい。
- リソースの整備とそのため技術開発は両輪であるので、これまで通り堂々と主張すべきである。
- BRC 全体のロードマップ(基盤から開発までの道のり)を示していただきたい。
- 資金が不足してできない将来計画について、具体例を示していただきたい。
- 技術者に対する評価系を検討していただきたい。
- ユーザーにはBRC 動物の寄託者ではなく利用者を含めていただきたい。

以上